

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食生活とSDGs	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	人間の体は、口に入れた食べ物からできている。すなわち食事は人体を作り育むものである。持続可能な食生活に必要な食物・その素材や加工時の表示情報、製造と流通、食の管理と環境との関わりについて理解する。さらに、食事の持つ多面的な機能や役割、食文化の起源や変遷、グローバル化を背景とする技術革新、日本独自の食の背景を学び、SDGsの視点からこれからの食生活のありかたを考察する。	・過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくことができる。(知識・技能) ・ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を適切に計画できる。(課題発見・解決力) ・個人の食生活がSDGsを事例として地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることを理解し説明できる。(探究・継続力)	・過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくための基礎的事項を活用できる。(知識・技能) ・ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を計画できる。(課題発見・解決力) ・個人の食生活が地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることの基礎的事項を理解し説明できる。(探究・継続力)
衣生活とSDGs	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	衣服は人体を覆うものであり、心と身体を包む最も身近な人工の環境である。持続可能な衣生活に必要な衣料素材や表示情報、製造と流通、衣服の管理と環境との関わりについて理解する。さらに、衣服の持つ多面的な機能や役割、衣服の起源や変遷、グローバル化を背景とする技術革新、日本の文化的な背景を学び、SDGsの視点からこれからの衣生活のありかたを考察する。	・衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する基礎的な知識を理解し、総合的に説明できる。(知識・技能) ・衣服の社会的な役割について理解を深め、TPOやライフステージに応じた衣服を適切に選び、衣服の計画的な購入や廃棄方法を示すことからSDGsの視点から持続可能な衣生活を提案できる。(課題発見・解決力) ・衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたをSDGsの目標やターゲットを踏まえて具体的に示すことができる。(探究・継続力)	・衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する最低限の知識を理解し、必要に応じて説明できる。(知識・技能) ・衣服の社会的な役割を理解し、TPOやライフステージに応じた衣服を適切に選ぶことから、持続可能な衣生活を提案できる。(課題発見・解決力) ・衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを継続して示すことができる。(探究・継続力)
住生活とSDGs	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	住まいは住生活の容れものであり、住生活に必要な空間が住まいに備わってなければならない。住まいが学んで来たプロセスとその背景にある文化・人の暮らしを見つめ直し、現代における住まいの役割を理解する。さらに、持続可能な社会を実現するための住まい・住空間のあるべき姿を考察する。	・身近にある住まいについて、住宅建築と住生活に関する知識を理解し、具体的に説明できるようになる。(知識・技能) ・今後の自分と住まいのつきあいをより良いものにするために必要な実践的な洞察力、判断力を身につけ、具体的な提案として説明することができる。(課題発見・解決力) ・住生活の変化に関心を持ち、持続可能な社会を実現するための具体的な住生活のあり方を示すことができる。(探究・継続力)	・身近にある住まいについて、住居と住生活に関する最低限の知識を理解し、基本的なことについては説明できるようになる。(知識・技能) ・今後の自分と住まいのつきあいをより良いものにするために必要な最低限の洞察力、判断力を身につけ、基本的なことについて説明することができる。(課題発見・解決力) ・住生活の変化に関心を持ち、持続可能な社会を実現するための基本的な住生活のあり方を示すことができる。(探究・継続力)
心の健康	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	多様化した現代の社会の中で健康で充実した生活を送るためには、自分のことについて、ある程度は理解していることが必要である。また、ストレスとトラウマを乗り越えていくためにも、カウンセリングについての情報が必要になる。この講義をとおして、心について学ぶことで自己理解を進め、さらに自己コントロールの方法を理解していく。	・自己分析、自己コントロールの大切さを十分理解して説明できる。(知識・理解) ・カウンセリングの手法を通して、自己や・他者を分析し、その行動を解釈することができる。(思考・判断・表現)	・自己分析、自己コントロールの大切さをおおよそ理解して説明することができる。(知識・理解) ・カウンセリングの手法を通して、自己や・他者を考察するための基礎を説明できる。(思考・判断・表現)
PC活用演習	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	専門教育科目における課題解決に活用できる情報処理能力を養うために、情報処理の基礎的な操作や知識に加えて、より高度なデータ管理、分析、文書作成、プレゼンテーションの知識を学び、理解する。さらに、目的に応じて必要とするソフトウェアWord、Excel、PowerPoint、Acrobat等を選択し、相互の連携機能を駆使して幅広く、継続的に活用できるスキルを身につける。	・Word、Excel、PowerPoint、Acrobat等ソフトウェアの高度な機能や使用方法、連携方法を理解し、実践的に活用できる。(知識・技能) ・Word、Excel、PowerPoint、Acrobat等のソフトウェアの機能の中から適切な機能を選択し、専門教育科目の課題解決に活用できる。(課題発見・解決力) ・PCで作成したデータの保存および管理方法について理解を深め、適切なデータ管理や情報のアップデートを行ない、継続的に活用できる。(探究・継続力)	・Word、Excel、PowerPoint、Acrobat等ソフトウェアの高度な機能や使用方法を理解し、実践的に活用できる。(知識・技能) ・Word、Excel、PowerPoint、Acrobat等のソフトウェアの機能を使って、専門教育科目の課題解決に活用できる。(課題発見・解決力) ・PCで作成したデータの保存および管理方法について理解し、データ管理を行ない、継続的に活用できる。(探究・継続力)
チャレンジ・ゼミナール(就職・編入チャレンジ)	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	早い時期から卒業後の進路について考え、情報を集めることは、在学中の学習にとっても、さらに長い人生においても大切なことである。この科目では、生活科学科の特別講義やイベント、学生支援課の進路支援プログラム、正課外講座等への参加を積み重ね、卒業後の進路についての学習を深め、準備する。これらの活動状況を報告書にまとめ、担当教員との面談・指導を受けながら進める。	・就職活動・編入等の進路選択に必要な知識・技能を充分に理解・修得できる。(知識・技能) ・高い洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を実践的に取捨選択できる。(課題発見・解決力) ・進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、積極的に取り組み探求する能力を身につけ、自身の活動として主体的に実践することができる。(探究・継続力) ・就職や編入学への取り組みについて、ゼミナールのメンバー間の意見を汲み取り、自分の意見を積極的に発言し、他者を支援しながら、将来の目標を明確に描き、行動することができる。(リーダーシップ)	・就職活動・編入等の進路選択に必要な知識・技能を理解・修得できる。(知識・技能) ・高い洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を取捨選択できる。(課題発見・解決力) ・進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、取り組み探求する能力を身につけ、自身の活動として実践することができる。(探究・継続力) ・就職や編入学への取り組みについて、ゼミナールのメンバー間の意見を汲み取り、自分の意見を発言し、行動することができる。(リーダーシップ)
卒業ゼミナール	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	4	2年間の学修の集大成として、指導教員のもと生活科学科に関わる課題を見だし、研究や制作を行う。その成果を論文または作品にまとめ、卒業発表・制作発表会において発表する。卒業研究の一員として、研究室に所属し、他者との協働によりリーダーシップを発揮しながら、長期間一つの課題に取り組み、準備する。これらの活動状況を報告書にまとめ、発表を通してプレゼンテーション技能を身につける。	・研究成果や作品について論理的にプレゼンテーションすることができる。(知識・技能) ・自らテーマを見つけ、自分の考えを言葉や形で表現し、成果を論文や作品にまとめることができる。(課題発見・解決力) ・長期間一つの課題に積極的に取り組み理解を深めることにより、基礎的な持続力や集中力を身につけることができる。(探究・継続力) ・研究成果や作品について論理的にプレゼンテーションすることができる。(発想力・提案力) ・研究室の一員として、メンバーとの意見の交換を積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)	・研究成果や作品についてプレゼンテーションすることができる。(知識・技能) ・自らテーマを見つけ、自分の考えを言葉や形で表現し、成果を最低限の論文や作品にまとめることができる。(課題発見・解決力) ・長期間一つの課題に取り組み、最低限の持続力や集中力を身につけることができる。(探究・継続力) ・研究成果や作品についてプレゼンテーションすることができる。(発想力・提案力) ・研究室の一員として、メンバーとの意見の交換を行い、自らの考えをある程度示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)
キャリアデザイン演習(就職・編入サポート)	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	卒業後の進路について具体的な将来像や働き方を思い描き、その実現に向けて必要とする知識やスキル、仕事内容について業界で働く外部講師の講義を通して理解を深める。さらに、進路選択に必要な自己分析やコミュニケーションスキルを高める方法を演習形式で学び身につける。	・将来像の実現に向けて、就職活動や編入試験に必要な知識やスキルを身につけ、行動に示すことができる。(知識・技能) ・卒業後の進路について考え、具体的な将来像を思い描き、自分の言葉で示すことができる。(課題発見・解決力) ・関心を持つ業界について探究し、概要や仕事内容を詳しく説明できる。(探究・継続力) ・自己分析やワークを通して自己理解を深め、他者と協力し合いながら物事を進めていく共立のリーダーシップ4タイプを理解し、自分自身のタイプを把握し高めることができる。(リーダーシップ)	・将来像の実現に向けて、就職活動や編入試験に必要な最低限の知識やスキルを身につけ、示すことができる。(知識・技能) ・卒業後の進路について考え、自分の言葉で示すことができる。(課題発見・解決力) ・関心を持つ業界について探究し、概要や仕事内容を説明できる。(探究・継続力) ・自己分析やワークを通して自己理解を深め、他者と協力し合いながら物事を進めていく共立のリーダーシップを理解し、高めることができる。(リーダーシップ)
キャリア実務基礎(公務員・SPI対応)	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	卒業後の進路選択に必要な基本的な知識やスキルの修得に向けて、公務員試験やSPI (Synthetic Personality Inventory: 総合適性検査) に関する試験制度や概要を学び、理解を深める。さらに、過去の試験問題や例題を演習形式で学ぶことから試験問題の傾向と対策を理解し、対応能力を身につける。	・公務員試験やSPIに関する基本的な内容や学習方法を理解して、具体的に説明することができる。(知識・技能) ・公務員試験やSPIに関する演習問題を通して卒業後の進路選択に必要な知識やスキルを身につけ、課題を解決することができる。(課題発見・解決力) ・公務員試験やSPIに必要とする知識やスキルを自ら計画を立て継続的に修得し、試験問題の傾向と対策を探究することができる。(探究・継続力)	・公務員試験やSPIに関する基本的な内容や学習方法を理解して、説明することができる。(知識・技能) ・公務員試験やSPIに関する演習問題を通して卒業後の進路選択に必要な知識を身につけ、最低限の課題を解決することができる。(課題発見・解決力) ・公務員試験やSPIに必要とする知識やスキルを修得し、試験問題の傾向と対策をある程度探究することができる。(探究・継続力)
CG基礎演習	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	デジタルデザインの入門として、Illustrator、Photoshopの基本的な操作方法を学ぶ。それぞれのソフトウェアが持つ多彩な機能について理解し、練習課題を通して専門教育科目における課題解決に活用できる操作スキルを習得する。また、ソフトウェアの基本操作を学びながら、デジタルデザイン制作の用途の違い(印刷物またはWEB)、設定方法、画像フォーマットの種類等、デジタルデザインに必要な知識を身に付けて継続的に活用する。	・IllustratorとPhotoshopを連携して使用し、実社会における諸課題の解決に活用できる。(課題発見・解決力) ・Adobe Illustratorの用途・機能を知り、基礎的な図形作成、変形、合成、レイヤー操作、その他の機能が操作できる。また、Adobe Photoshopの用途・機能を知り、基礎的な画像修正、加工、色調補正などの操作ができる。(知識・技能) ・デジタルデザインの基礎的な制作手法を学び、様々なデジタルグラフィックスの制作法や課題解決の方法を探索し活用できる。(探究・継続力)	・IllustratorとPhotoshopを連携して使用し、専門教育科目の課題解決に活用できる。(課題発見・解決力) ・Adobe Illustratorの用途・機能を知り、基礎的な図形作成、変形、合成ができる。また、Adobe Photoshopの用途・機能を知り、基礎的な画像修正、加工ができる。(知識・技能) ・デジタルデザインの基礎的な制作手法を学び、簡単な図形制作、画像加工法を探索し活用できる。(探究・継続力)
CG応用演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	デジタルデザインの応用として、Illustrator、Photoshopのオペレーションを踏まえながら、ページレイアウトの制作手法を学ぶ。IllustratorやInDesignによる編集デザインの基礎を習得し、出版物の原稿・画像データの準備、編集、デザイン、レイアウトなどの作業を行う。クリエイティブな課題作品制作を通じて、印刷を想定した出力までのワークフローを理解する。	・Adobe InDesign、Illustrator、Photoshopの特性を活用しながら、編集デザインのワークフローを深く理解できる。(知識・理解) ・アプリケーションの機能を理解し、デザイン性の高いビジュアル作成ができる。(技能) ・ページレイアウトの制作手法を学びながら、デザイン性の高い作品制作を目標にしたデータ制作、入稿、出力までの作業ができる。(技能)	・Adobe InDesign、Illustrator、Photoshopの特性を活用しながら、編集デザインのワークフローを理解できる。(知識・理解) ・アプリケーションの機能を理解し、基本的なビジュアル作成ができる。(技能) ・ページレイアウトの制作手法を学びながら、基本的な作品制作を目標にしたデータ制作、入稿、出力までの作業ができる。(技能)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
メディア社会論	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	情報の入手や流通においてデジタルメディアが重要な役割を持つようになったメディア社会について理解を深め、情報ネットワークが生活の様々な場面に及ぼす影響について考察する。メディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えていることから、メディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解し、活用するための知識を涵養する。	・アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、情報メディアの種類と特徴、それらがどのように発展してきたか、それらが持つ役割やリスクについて説明できる。（知識・技能） ・実社会の課題解決のために適切なメディアを選択して、情報発信の手段として有効かつ安全に利用できる。（課題発見・解決力） ・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。（リーダーシップ）	・アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、情報メディアの種類と特徴、それらがどのように発展してきたか、各種メディアの相違点を説明できる。（知識・技能） ・実社会の課題解決のために適切なメディアを選択して有効かつ安全に利用できる。（課題発見・解決力） ・グループワークにおいて、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。（リーダーシップ）
ソーシャルメディア演習	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	SNSをはじめとするソーシャルメディアが日常生活のみならず、災害時においても重要な情報源として機能することの理解を深めるとともに、ソーシャルメディアの安易な利用に伴うセキュリティやプライバシーに関わる問題にも注目することにより、正しく活用するための知識およびスキルを習得する。	・ソーシャルメディアを簡単に定義し、ソーシャルメディアに分類される代表的なオンラインサービスを挙げて、それらのサービス内容を説明でき、サービス利用の際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪、倫理等の諸問題について説明できる。（知識・技能） ・異なるソーシャルメディアの特徴、目的、使用方法を理解し、ソーシャルメディアを活用して適切に情報収集および情報発信ができる。（発想力・提案力） ・デジタル社会におけるリテラシーについて十分な知識を持ち、ソーシャルメディアを適切かつ安全に利用するための諸課題を発見・解決し、情報発信に活用することができる。（課題発見・解決力）	・ソーシャルメディアについて理解し、代表的なソーシャルメディアの種類とサービス内容の違いを知り、それらを利用する際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪、倫理等の諸問題について説明できる。（知識・技能） ・異なるソーシャルメディアの特徴、目的、使用方法を理解し、ソーシャルメディアを活用して適切に情報収集および情報発信ができる。（発想力・提案力） ・デジタル社会におけるリテラシーについて最低限の知識を持ち、ソーシャルメディアを安全に利用するための諸課題を発見・解決し、情報発信に活用することができる。（課題発見・解決力）
サステイナブル社会論	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	2	2	サステイナビリティ（持続可能性）は21世紀の社会を形作る上で重要な概念であることを学ぶ。人間の活動が地球環境に与える影響を知り、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題の解決や持続可能な暮らしについて理解を深める。	・サステイナビリティの概念を理解し、日本が抱える環境問題・課題を知り、それらを解決するための方策について説明できる。（知識・技能） ・日本が目指すべき持続可能な社会の在り方を考察し、サステイナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を見つけていることができる。（課題発見・解決力） ・日々の暮らしの中で、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題に関心を持ち、自分事として深く探究する態度を身につけることができる。（探究・継続力） ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・サステイナビリティとは何かを説明し、日本の環境に関する諸問題を知り、課題解決の方策および日本にとって持続可能な社会とは何かを説明できる。（知識・技能） ・サステイナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を見出し、調査することができる。（課題発見・解決力） ・日々の暮らしの中で、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題に関心を持ち、自分事として探究する態度を身につけることができる。（探究・継続力） ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを行うことができる。（リーダーシップ）
情報メディア演習	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	2	2	本演習では、情報メディアを色彩の側面から考察し、色彩力を涵養する。グローバルスタンダードなマンセルシステムを基に、美しい色と色の組み合わせ、色と形の効果的な関係、色と形の大きさやプロポーションとの関わりなど、色彩と形体の造形表現を踏まえ、実践的な配色テクニックについてデザインの視座から学修する。魅力ある色彩で、人を惹きつけるための配色の基本システムと活用方法を理解し、造形力を身につける。	・基本となる色彩システムを深く理解し、色彩理論、色彩調和を理解した上で、実践的な色彩感覚を適用することができる。（知識・技能） ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した高い能力を示す制作ができる。（課題発見・解決力） ・造形表現における配色について具体的に評価し、高い能力を示す新たな提案ができるようになる。（発想力・提案力） ・ユニバーサルカラーの重要性を十分に理解し、他者を支援する配色理論の実践について具体的に提案できるようになる。（リーダーシップ）	・基本となる色彩システムを理解し、色彩理論、色彩調和を理解した上で、基礎的な色彩感覚を適用することができる。（知識・技能） ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した基礎的な能力を示す制作ができる。（課題発見・解決力） ・造形表現における配色について評価し、新たな提案ができるようになる。（発想力・提案力） ・ユニバーサルカラーの重要性を理解し、他者を支援する配色理論の実践について提案できるようになる。（リーダーシップ）
メディアデザイン論	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	現代社会におけるデジタルメディアの現状と今後の可能性を概説し、メディアデザインについて考察する。メディアデザインはグローバル化の潮流が進む中で、膨大な情報や多様な価値観が交錯する現代社会におけるコミュニケーションやデザインの一翼を担っている。アイデアンティティとしてのメディアデザインを理解することによって、これからのメディア文化に対するリテラシーを身につけていく方法論も考察する。	・造形学的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を客観的に説明することができる。（知識・技能） ・造形原理を理解しながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて詳しく述べることができる。（探究・継続力） ・メディアのリテラシーを身につけ、造形、デザインの今後のあるべき姿について説明することができる。（発想力・提案力）	・造形学的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を簡単に説明することができる。（知識・技能） ・造形原理を理解しながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて述べることができる。（探究・継続力） ・メディアのリテラシーを身につけ、造形、デザインの今後のあるべき姿について簡単に説明することができる。（発想力・提案力）
ユニバーサルデザイン論	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	2	2	ユニバーサルデザイン（Universal Design, UD）に対する理解を深め、生活科学におけるその必要性と意義について考察する。言語や文化、年齢、性別、能力、経験などの差異に関わらず、すべての人に利用可能な「やさしい」デザインを考え、幅広いデザイン領域にまたがるユニバーサルデザインの将来像と現代社会における役割について解説する。身近な事例をもとに、「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）など、ユニバーサルデザインの原則に基づいた考察を展開する。グローバル化する現代社会において、ユニバーサルデザインに対する知見を高め、多様な生活環境やコミュニケーションを豊かにする方法論を涵養する。	・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について詳しく説明できる。（知識・技能） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形について観察し、課題を見出し解決案を提示することができる。（課題発見・解決力） ・ユニバーサルデザインにおける「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）の優れた活用能力を示すことができる。（発想力・提案力）	・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について説明できる。（知識・技能） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形について観察し、課題を発見することができる。（課題発見・解決力） ・ユニバーサルデザインにおける「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）の基礎的な活用能力を示すことができる。（発想力・提案力）
CG演習A(イラストレーター)	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	コンピュータを造形表現のツールとしたデジタルデザインを学ぶ。Macintoshの基本的な操作からスタートし、2D/3Dデザインの基礎となるIllustratorをデザインツールとして修得、デザインの基本造形力を涵養する。また、DTP（デスクトップ・パブリッシング）の基礎を習得しながら、デジタルカラー、デジタルフォント、画像処理等の知識ベースを学ぶ。作品制作を通して、実践的なデザイン・ワークフローを修得する。	・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現に適用できる。（知識・技能） ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（探究・継続力） ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（課題発見・解決力）	・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、基礎的なビジュアル表現に適用できる。（知識・技能） ・デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（探究・継続力） ・基本的な手順を組み立てて、基礎的なビジュアルを作成できる。（課題発見・解決力）
CG演習B(フォトショップ)	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	コンピュータを造形表現のツールとしたデジタルデザインを学ぶ。CG演習A（イラストレーター）で習得した内容に加え、デジタルカラー（CMYK/RGB）、カラーマネジメント、画像レタッチ等のPhotoshopの基礎的なオペレーションと同時に、ビットマップ画像処理を涵養する。そのうえで、Illustratorとの連携作業を習得しながら、DTP（デスクトップ・パブリッシング）の応用的なトレーニングで実践的な作品制作を行う。CG演習A（イラストレーター）と合わせ、デジタルデザインの体系的な作品制作能力を高める。	・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現が自由に適用できる。（知識・技能） ・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を自由に操作し、画像設計をイメージ通りに補正できる。（探究・継続力） ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（課題発見・解決力）	・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、基礎的なビジュアル表現に適用できる。（知識・技能） ・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を操作し、画像設計をイメージ通りに補正できる。（探究・継続力） ・デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（課題発見・解決力）
DTP演習	生活科学科 専門教育 科目 メディア社会 コース	2	2	CG演習をベースとしたMacintoshによるDTP（デスクトップ・パブリッシング）の基礎を学ぶ。Photoshop、Illustratorを併用させたデジタルデザインを習得する。色彩構成の基礎を題材に色彩感覚、配色方法、構図、レイアウトの実習などの作品制作を通して、DTPの実践的なデザイン・ワークフローの理解を目指す。アイデアを具現化する面白さとデジタル表現の可能性を体験し、造形力を身につける。	・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた高度なデジタルデザイン制作ができる。（知識・理解） ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（技能） ・実践的なDTP作品制作ができる。（技能）	・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた基本的なデジタルデザイン制作ができる。（知識・理解） ・手順を組み立てて工夫しながら、基本的なビジュアルを作成できる。（技能） ・基本的なDTP作品制作ができる。（技能）
Webデザイン演習	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	2	2	CG演習をベースにMacintoshによるWebデザイン制作を学ぶ。Adobe Photoshop・Illustratorを連携させた画像補正とリサイズ、色調修正、Webカラー、デジタルフォント、ビットマップイメージ設計を身につけ、Webデザインのコンテンツ構築及びUI/UXデザインを習得する。共通テーマに基づいた課題制作を通して、実践的なサイトデザインのワークフローの理解を目指す。	・Adobe DreamweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開について詳しく説明できる。（知識・技能） ・CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる素材制作の操作ができる。（探究・継続力） ・デザイン性の高いWebサイトを制作できる。（課題発見・解決力）	・Adobe DreamweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開の基礎的事項について説明できる。（知識・技能） ・CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる基礎的な素材制作の操作ができる。（探究・継続力） ・基礎的なWebサイトを制作できる。（課題発見・解決力）
アニメーション制作演習	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	CGアニメーションの原理を学びながら、Adobe Animateによるアニメーション制作手法を学ぶ。また、人の運動知覚を利用して、効果的な動画表現を習得する。Photoshop、Illustratorと連携させながら、さまざまなアニメーション制作手法を通して、実践的なワークフローを身につける。	・デジタルイメージ、デジタルカラーについて詳しく説明できるようになる。（知識・技能） ・Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。（探究・継続力） ・人の知覚の仕組みを解釈し、より効果的な動画表現ができるようになる。（発想力・提案力）	・デジタルイメージ、デジタルカラーの基礎について説明できるようになる。（知識・技能） ・Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、基本的な制作手法を実践できるようになる。（探究・継続力） ・人の知覚の仕組みを解釈し、基礎的な動画表現ができるようになる。（発想力・提案力）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
メディア心理学	生活科学科 専門教育 科目 メディア社会 コース	2	2	人々はどうのようにメディアからの情報に影響を受けているのか、特にソーシャルメディアにおけるコミュニケーションの特徴について理解を深め、ソーシャルメディアがもたらす様々な集合行動についても事例をもとに考察することにより、新たなメディア社会における課題の発見やその解決策を追究する。	・メディア心理学の学問的な位置付けソーシャル、メディア、ソーシャルメディアの社会的影響力を知り、情報やメディアの種類によって人は行動・態度を変えようとすることを理解する。(知識・理解) ・ソーシャルメディアの問題点を考察し、それらに対する心理学的な議論を展開し、意見を述べる事ができる。(思考・判断・表現)	・メディア心理学の学問的な位置付けを理解し、メディアの人に対する心理学的影響について理解する。(知識・理解) ・ソーシャルメディアの問題点を考察し、それらに対する心理学的に表現することができる。(思考・判断・表現)
マーケティングリサーチ演習	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	2	2	人間の意識や行動を方向付けている基準は、価値の多元化が進む現代においては、その基準も一義的ではなくなっていることから、その多様性を追究する方法論としてのマーケティング・リサーチのプロセスを明確に理解し、その手法、データの収集・整理・解析方法、報告書作成に関する実践的なスキルやノウハウを習得する。	・マーケティングリサーチを実施することにより、実社会の諸課題を探索し、継続的に課題解決する姿勢を身に付ける。(探究・継続力) ・マーケティングリサーチの役割、プロセス、マーケティングとは何かを理解し、調査を通してデータの収集・整理・解析方法、報告書作成に関するスキルやノウハウを身に付ける。(知識・技能) ・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながらマーケティングリサーチ課題を完成し、報告書を作成できる。(リーダーシップ)	・マーケティングリサーチにより、実社会の諸課題を探索する姿勢を身に付ける。(探究・継続力) ・マーケティングリサーチの調査を通してデータの収集・整理・解析方法、報告書作成に関するスキルを身に付ける。(知識・技能) ・グループワークにおいて、他者と協働しながらマーケティングリサーチ課題に取り組み、報告書を作成できる。(リーダーシップ)
ポップカルチャー論	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	ポップカルチャー(ポピュラーカルチャー)は、社会において広く一般の人々が楽しんでいる文化のことで、マンガ、アニメ、ファッション、料理など、私たちが日常よく目にするものが含まれている。これに対して芸術や演劇などの高尚な文化はハイカルチャー、マニアのための文化はサブカルチャーと呼ばれ、異なるジャンルの文化として区別されている。この科目では、様々なポップカルチャーの事例を見ながら、その特徴・魅力を分析し、国境を越えて広がるポップカルチャー(越境する文化)について議論しながら、グローバル時代の文化について考察する。	・ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違い、文化のグローバル化、ローカリゼーションのメカニズムを理解し、日本の政治的、外交的資源としてのポップカルチャーの役割を説明できる。 ・海外で人気がある日本文化製品と日本が抱える諸課題との関連について分析し、日本文化製品によってこれらの課題を解決する方法を発見することができる。(課題発見・解決力) ・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)	・ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違い、文化のグローバル化、ローカリゼーションのメカニズムを理解する。(知識・技能) ・日本社会が抱える諸課題を理解し、日本文化製品によってこれらの課題を解決する方法を発見することができる。(課題発見・解決力) ・グループワークにおいて、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)
メディアカルチャー演習	生活科学科 専門教育 科目 ITメディアコース	1	2	メディアという言葉は他の言葉(マス、デジタル、ソーシャル等)と組み合わせることによっていろいろな新しいメディアの概念をつくりだしているが、いずれも「情報を伝達する」という共通した社会的役割を果たしている。この科目では、様々な「メディア」を調査研究のツールとして、社会現象を社会的に調査・分析する。デジタル・メディアを活用したエスノグラフィなどの定性的調査方法により、現代社会の諸課題を発見し、課題解決の能力を涵養する。	・メディアに関する様々な用語の定義および社会調査の基本を理解し、様々なデジタルメディア機器を活用して、フィールドワーク調査を実施できる。(知識・技能) ・フィールドワークで集めたデータ(写真、動画、フィールドノート等)を社会的および文化的視点から考察・分析して、課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(課題発見・解決力) ・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながらフィールドワーク課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)	・メディアに関する様々な用語の定義を理解し、デジタルメディア機器を活用して、フィールドワーク調査を実施できる。(知識・技能) ・フィールドワークで集めたデータ(写真、動画、フィールドノート等)から、課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(課題発見・解決力) ・グループワークにおいて、他者と協働しながらフィールドワーク課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)
生活デザイン論	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	人間に最も身近な生活環境のデザイン(生活道具、服飾、雑貨、生活空間およびこれらの周辺領域)について、生活者の視点から、デザインの定義、成立過程、様式、エレメント等について理解する。大量生産・大量消費のデザインから、あらゆる人々が安全で快適に使うことのできる、環境に配慮した持続可能なデザインとは何かについて、具体的な事例を挙げて、フィールドワーク等の調査を行う。調査の結果はスケッチ課題を通じて履修者間で共有し考察する。そのうえで、これからの社会において求められる生活デザインを選択する力を養い、発想・提案することができるための基本的な知識と技能を身に付ける。	・社会における様々なデザインの価値・役割を生活者の立場から具体的に説明できる。(知識・技能) ・具体的な事例をもとに、開発プロセスや使用環境を体験することによって、職能領域の流れやユーザーエクスペリエンスを理解・説明できる。(知識・技能) ・フィールドワークやインタビュー等の調査を自分で組み立てて調査・分析を行い、一連の結果を客観的に捉え、スケッチ課題に的確に記述・発表することができる。(課題発見・解決力) ・持続可能なデザインへの理解を深め、これからの社会におけるデザインのありかたを具体的に提案することができる。(発想力・提案力)	・社会における様々なデザインの価値・役割を説明できる。(知識・技能) ・具体的な事例をもとに、使用環境を体験することによって、デザインの特徴や製作意図を理解できる。(知識・技能) ・フィールドワークやインタビュー等の調査を実施し、結果をスケッチ課題にまとめることができる。(課題発見・解決力) ・これからの社会におけるデザインのありかたを提案することができる。(発想力・提案力)
プロダクトデザイン論	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	2	プロダクトデザインとは、家電製品、衣服、インテリア雑貨、家具、パッケージ、玩具など、生活に必要な道具、機械、製品のデザイン全般を意味し、工業製品をはじめ、広義には手工芸も含まれる。社会とプロダクトデザインの関係、デザインマネジメント、デザインプロセス、ユーザ調査・コンセプト・デザイン評価のための手法、視覚化のための手法などを学び、プロダクトデザインに関する理論と知識を修得する。	・生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義の明確に説明できる。(知識・技能) ・ソリューション・デザイン、ソーシャル・デザイン、サステイナブル、ダイバーシティ等、プロダクトデザイン分野で使用される用語を正しく理解し、デザイン思考の方法論について客観的に捉え、問題を解決するために自ら充分に探究することができる。(探究・継続力) ・感性工学的・人間工学的なデザインの基本に基づき、プロダクトの機能や役割を様々な視点から検討・判断することができる。(課題発見・解決力)	・生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が説明できる。(知識・技能) ・プロダクトデザイン分野で使用される用語を理解し、問題を解決するために自ら探究することができる。(探究・継続力) ・感性工学的・人間工学的なデザインの基本に基づき、プロダクトの機能や役割を判断できる。(課題発見・解決力)
カラーコーディネート演習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	色彩の役割や機能を認識し、配色の効果的な技法を修得するために、生活と色彩、光と色彩、目と大脳の関係、色がもたらす心身、色彩の心理、マンセル体系、NCS、PCCSをはじめ、PANTONEやDIC等の実務に不可欠な表色体系、代表的な色彩調和論、デジタルカラーの理論、色彩調査の実施、プロダクトの色彩、カラーコミュニケーションの理解と事例研究などを学ぶ。配色カードを活用した演習を行うことで、色彩や配色に関する知識と表現に活かす創造力を養う。	・色彩学の知識(色彩工学・色彩心理・応用色彩学)および、美しく調和のとれた配色デザインとは何か、ユニバーサルデザインについて十分に理解した上で、得られた知識を学習課題に活用・応用できる。(知識・技能) ・演習課題を通じて課題を発見し、優れた色彩の選択ができることに加え、色彩の理論をふまえた表現ができる。(課題発見・解決力) ・優れた作品例を鑑賞し、豊かな色彩表現につなげたり、身の回りの色彩環境を創造的に構築することができる。(発想力・提案力)	・色彩学の基本的な知識を学び、美しく調和のとれた配色デザインとは何かを説明できる。(知識・技能) ・演習課題を通じて課題を発見し、色彩の選択や表現ができる。(課題発見・解決力) ・優れた作品例を鑑賞し、色彩表現につなげることができる。(発想力・提案力)
イラストレーション(実習)	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	1	イラストレーションとは、情報や概念の視覚化、図解などのコミュニケーションを主目的とした表現である。イラストを作成するために重要な絵画的・造形的な基礎技術である、観察/描写/構成/色彩/画材/空間/企画・演出の基本を習得し、人物画やオリジナルカット、製品の形やファッション画、家具、キャラクター、広告、パッケージ、ポスターなどの多種多様なイラストを正確にかつ表現力豊かに制作するための基本的な技術を学ぶ。	・イラストレーションの基本を学び、造形に対する知識を習得した上で、様々なテクニクを学び、イラストレーションに必要な的確な描写力と豊かな表現力を習得できる。(知識・技能) ・イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解することができる。(課題発見・解決力) ・描く過程での試行錯誤を通じて、イラストレーションで明確なメッセージを伝えることができる。(発想力・提案力)	・イラストレーションの基本を学び、イラストレーションに必要な描写力と表現力を習得できる。(知識・技能) ・イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解することができる。(課題発見・解決力) ・イラストレーションでメッセージを伝えることができる。(発想力・提案力)
彫金実習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	1	銀を主な素材とし金属工芸技術を学びながら、リング・ペンダント・ブローチ等のジュエリーを制作する。金属を切ったり曲げたり、叩いたり、バーナーによるロー付け、ヤスリがけ、研磨と多種類の技術を習得する。始めは工具の扱いに慣れるための作品制作を行う。ジュエリーにとってデザインは重要な要素であり、ものを創るということとは周りに対する注意深い眼を持つことでもある。考察力、表現力、造形力を培いながらオリジナリティある作品に取り組み。	・「彫金」という金属工芸の伝統技法の習得を通じ、素材や歴史的背景について十分な説明ができる。(知識・技能) ・制作を通じて様々な工具を使い、作品を作り上げることで、デザイン・造形力・感性を磨く力を習得できる。(知識・技能) ・現代における工芸、金属造形のあり方を考え、自分の表現と新たな方向性を探り探究することができる。(探究・継続力) ・実習を通じて習得した知識・技能を十分に活用し、ジュエリーデザインに反映できる能力と、具現化できる表現力を発揮し、オリジナリティある作品を完成させることができる。(発想力・提案力)	・「彫金」という金属工芸の伝統技法の習得を通じ、素材や歴史的背景について説明できる。(知識・技能) ・制作を通じて様々な工具を使い、作品を作り上げることで、デザイン・造形力・感性を磨くことができる。(知識・技能) ・現代における工芸、金属造形のあり方を考え、自分の表現を探究することができる。(探究・継続力) ・実習を通じて習得した知識・技能を活用し、デザインに反映させることができる。(発想力・提案力)
生活プロダクトデザイン演習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	4	わたしたちの日常に密着した生活デザイン、およびプロダクトデザインについて理解する。生活者の視点から、デザインの定義、成立過程、様式、エレメント等について学んだ上で、製品のユーザビリティ評価、神保町のフィールド調査に基づくグループワーク、展覧会・展示会やデザインアワード見学、模型制作等を通じて、問題発見力、構成力、提案力を身に付ける。これらの演習により、プロダクトデザインを主体的に選択したり、専門的な立場から製品企画や消費者への提案ができるような知識と技能を修得する。	・生活にかかわるプロダクトデザインに関連する専門的な知識について理解・説明できる。(知識・技能) ・人間工学、安全性、市場性を理解した上で、企画・デザインしたり、具体的な形に表現することに加え、発見的な課題に取り組み、レポートや作品等を通じて、記述・発表できる。(知識・技能) ・演習課題に取り組み、優れた想像力、造形力、表現力を磨き、独自の創造的思考力と具現化能力を修得した上で、作品を完成させて、的確に発表することができる。(発想力・提案力) ・グループワークを通じて、自分の意見を自分の言葉で的確に伝え、メンバーの意見を汲み取り、成果を十分に発揮することができる。(リーダーシップ)	・生活にかかわるプロダクトデザインについて理解・説明できる。(知識・技能) ・人間工学、安全性、市場性を理解した上で、企画・デザインしたり、具体的な形に表現できる。(知識・技能) ・演習課題に取り組み、想像力、造形力、表現力を磨き、作品を完成させて、発表することができる。(発想力・提案力) ・グループワークを通じて、自分の意見を自分の言葉で伝え、成果を発揮することができる。(リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
デッサン（実習）	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	1	基礎描写力の修得は、自らの観察力、構成力、造形力の向上にきわめて役立つと共に自らの創作の基盤となる。この科目では、もの創りに必要なデッサン力の習得を目指し、形の捉え方についての基礎知識と技法についての実技を通じて学習する。形の見たかた、とり方、構図について理解する「基礎演習」、正確に形を描く力を養う「静物デッサン」、短時間で形を的確に捉える眼を養う「鉛筆のロッキー」、人体のプロポーションを把握する「モデル演習」などの基礎を積み重ね、パステルや色鉛筆での「イラスト制作」に取り組み表現の楽しさを体験する。	・デッサンの基本を学び、造形に対する深い知識を習得し、的確に説明できる。（知識・技能） ・イラスト制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、日頃から継続的に造形作品に親しみ、鑑賞できる態度を養うことができる。（探究・継続力） ・基礎演習を積み重ね、テクニックを学ぶことで、あらゆるもの創りに必要なデッサン力を十分に習得し、自らの表現活動に活かせる課題発見力・描写力・洞察力を身につけることができる。（課題発見・解決力）	・デッサンの基本を学び、造形に対する知識を習得できる。（知識・技能） ・イラスト制作を通じて表現の楽しさを感じ、継続的に造形作品を身近に鑑賞する態度を身につけることができる。（探究・継続力） ・基礎演習に取り組み、テクニックを学ぶことで、あらゆるもの創りに必要なデッサン力を習得し、自らの表現活動に活かせる課題発見力・描写力・洞察力を身につけることができる。（課題発見・解決力）
ファッションビジネス論	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	2	ファッションビジネスは、経済動向の変化や新興国の台頭により、グローバル化が進み大きく変化している。日本のアパレルを中心とするファッションビジネスの変遷や現在のアパレル・ファッション業界の構造に加えて、アパレル・ファッションビジネス特有のマーケティング、マーチャンダイジング、流通について理解する。さらに「ファッションビジネス能力検定」などファッションビジネス分野に設置されている資格とその役割について理解する。	・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な知識を修得し、アパレル業界の現状を具体的に説明できる。（知識・技能） ・アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について探究し、資格取得に向けて、継続的に学ぶことができる。（探究・継続力） ・アパレル・ファッション業界に関心を持って業界特有の生産・流通・消費構造が持つ諸課題を的確に理解し、解決方法を具体的に示すことができる。（課題発見・解決力）	・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な最小限の知識を修得し、アパレル業界の現状を説明できる。（知識・技能） ・ファッション分野特有の構造や機能について探究することができる。（探究・継続力） ・アパレル・ファッション業界に関心を持って業界特有の生産・流通・消費構造が持つ諸課題を理解し、解決方法を示すことができる。（課題発見・解決力）
ファッションデザイン論	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	ファッションは人びとの行動や考え方を規定する社会現象であるという観点から、ファッションデザインの変遷を学ぶ。人はなぜ服を着るのかという衣服の起源に始まり、記号性や流行の理論を学んだ上で、現代ファッション史を概観する。現代版の原点であるシャネル、ディオールの50年代ファッション、60年代のミニ、モッズやツイビー、70年代のフォークロアジャンズ、80年代以降の三宅・川久保・山本らの革新性、90年代のカジュアル化、2000年代のファスト化、2010年代のSNSによるファッション情報の変化、2020年代におけるファッションデザインにおけるサステナビリティ等、今日の課題について理解する。	・近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンド、現代のファッションの問題点について、具体的にかつ、詳しく説明できる。（知識・技能） ・ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点を指摘し、消費・生産・流通等の諸課題について具体的に提言することができる。（課題発見・解決力） ・設定されたテーマに加え、自らで考案したアイデアをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを通じて、授業で理解した内容を的確に表現できる。（発想力・提案力）	・近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンドについて説明できる。（知識・技能） ・ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点を指摘することができる。（課題発見・解決力） ・設定されたテーマをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを行い、授業で理解した内容を表現できる。（発想力・提案力）
ファッションデザイン演習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	4	ファッションは、美しさや快適性を求める人間の欲求から生まれてくるものである。ここでは感性豊かなクリエイターになるための資質を身につけるための演習を総合的に行う。自分自身の装いの評価やイメージマップの作成、繊維素材の特性や用途、シルエットの分類やカラーコーディネート、ディテールやテキスタイルに配慮したデザイン画について理解する。さらに、表現力の向上、経済性・社会性・環境を配慮した衣服の選択や提案力を養い、消費者への提案や助言できる能力を修得する。	・ファッションに関する素材やシルエット、TPOに応じた装いなどについて具体的に示し、服飾デザインに必要な最小限の縫製技術を身につけることができる。（知識・技能） ・表現力、経済性、社会性、環境に配慮した衣服や適切な着装を探究し、学び続ける姿勢を身につけることができる。（課題発見・解決力） ・消費など、他者への提案や適切な助言を具体的に示すことができる。（発想力・提案力） ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・ファッションに関する素材やシルエット、TPOに応じた装いなどについて示し、さらに、服飾デザインに必要な最小限の縫製技術を身につけることができる。（知識・技能） ・表現力、経済性、社会性、環境に配慮した衣服や着装を探究し、学ぶ姿勢を身につけることができる。（課題発見・解決力） ・消費者など、他者への提案や助言をすることができる。（発想力・提案力） ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）
アパレル企画演習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	2	アパレル・ファッション業界における企画部門の業務内容や現状を学ぶことから、その役割を理解する。仮想ブランド等を設定し、カタログの企画・製作、プロモーションを機動的に実施することから企画力や発信力を養う。さらに、市場動向や消費者動向の調査手法、年間のプロモーション計画の立案などのグループワークを通して、コミュニケーションの進め方について理解する。	・アパレルにおける企画の役割を理解し、具体的に提案できる。（課題発見・解決力） ・アパレル業界の動向や消費者動向を的確に理解し、消費者ニーズの変化や課題を具体的に説明できる。（課題発見・解決力） ・アパレル・ファッション業界に関心を持ってプロモーションに関する具体的な企画を提案し、積極的に取り組むことができる。（発想力・提案力） ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・アパレルにおける企画の役割を理解し、提案できる。（課題発見・解決力） ・アパレル業界の動向や消費者動向を理解し、消費者ニーズの変化や課題を説明できる。（課題発見・解決力） ・アパレル・ファッション業界に関心を持ってプロモーションに関する企画を提案し、取り組むことができる。（発想力・提案力） ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップをある程度発揮することができる。（リーダーシップ）
アパレル制作実習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	1	ファッションを楽しむ装うことは、新しい女性の生き方でも生み出してきた。この科目では、衣服やその周辺のファッションアイテムを対象に、衣服や帽子の製作を通じて、服地の取り扱いやパターン（型紙）を用いた基本的な製作技術や知識を学び、デザイン力を養う。また、着用者に合った衣服や帽子のデザイン、服地選びからファッションのコーディネートと学ぶと共に、ファッションに対する理解を深める。	・衣服や帽子の制作方法を理解し、優れた作品を完成することができる。（知識・技能） ・衣服や帽子の製作技術やデザインを探究し、優れたデザイン力を身につけることができる。（探究・継続力） ・TPOやライフステージに応じたファッションを適切に選び、コーディネートと提案することができるようになる。（発想力・提案力）	・衣服や帽子の基本的な制作方法について理解し、作品を完成することができる。（知識・技能） ・衣服や帽子の基本的な製作技術やデザインを探究し、デザイン力を身につけることができる。（探究・継続力） ・TPOやライフステージに応じたファッションを選び、コーディネートできるようにする。（発想力・提案力）
和装デザイン実習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	1	和装は日本の伝統的な衣服として、現代においても着用する場面が多く、重要な意味を持っている。和装に用いられる反物やその技法、模様、配置、名称、種類などを理解し、和装の基本となる着物単長着（浴衣）を制作する。さらに着付けや和装品の取扱い方の実習を通して、合理的な和装の機能について理解する。	・浴衣の基本的な構造や機能を的確に理解し、浴衣の製作や着付けを的確に行うことができる。（知識・技能） ・和装の優れた機能を具体的に示し、伝えることができる。（探究・継続力） ・和装についての基本的な知識を理解し、TPOに合った的確な着装を提案することができる。（発想力・提案力）	・浴衣の基本的な構造や機能を理解し、浴衣の製作や着付けを行うことができる。（知識・技能） ・和装の優れた機能を示し、伝えることができる。（探究・継続力） ・和装についての基本的な知識を理解し、TPOに合った最小限の着装を提案することができる。（発想力・提案力）
住環境デザイン論	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	建築における快適な室内環境を創出するための要因である「熱、空気、光及び音」に関する基礎的な事項、および高齢者・障害者の視点から、住まい、地域、施設にいたる住環境整備の重要性について、テキストや関連資料を用いて学習し理解する。福祉住環境コーディネーター検定試験の基礎学習内容を含んでいる。	・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因やバリアフリー等の福祉的環境要因を理解し、実的に説明できる。（知識・技能） ・快適な住環境を実現するために、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを理解・探求し、客観的な視点から説明できる。（探究・継続力） ・快適で健康的な住生活ができる環境及び福祉配慮型住宅を実現する技能を実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができる。（発想力・提案力）	・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因やバリアフリー等の福祉的環境要因を最低限理解し、基本的なことを説明できる。（知識・技能） ・快適な住環境を実現するために、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを最低限理解し説明できる。（探究・継続力） ・快適で健康的な住生活ができる環境及び福祉配慮型住宅を実現する技能を学習によって身につけ、提案できる。（発想力・提案力）
インテリア構成論	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	2	床、たみ、間仕切り、ふすま、障子、柱・梁、天井、屋根、外壁、開口部、出入り口、屋敷敷など、住宅やインテリアを構成する諸要素一つひとつについて、椅子や照明器具などのインテリア家具に触れたり、20世紀を代表する建築家の作品を見ながら学習し、理解する。	・インテリアを構成する諸要素について理解し、具体的に説明できる。（知識・理解） ・諸要素を組み合わせて成立するインテリアデザインの基本を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができる。（思考・判断・表現）	・インテリアを構成する諸要素について最低限理解し、基本的な内容を説明できる。（知識・理解） ・諸要素を組み合わせて成立するインテリアデザインの基本を学習によって身につけ、提案ができる。（思考・判断・表現）
インテリア製図演習I	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	製図は自分の考えの表現手段であると同時に、伝達手段でもある。ひとりよがりな表現では他者に内容を正しく伝えることは不可能であり、多くの人に共有されている製図のルールに従って表現することが要求される。また、表現されるものも、単なる夢や空想のレベルではなく、実現可能なレベルの作品であることが要求される。こうした要求に応じられるように、製図台や専門的な製図用具を用いて実務に対応した製図の基礎を学習し、理解する。	・将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるために必要な製図上の基本的な知識を理解し、説明できる。（知識・技能） ・本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を、実践的な学習によって身につけて、製図を行うことができる。（知識・技能） ・情報を伝える手段としての設計図の表現方法を提案し、正確に美しく作図することができる。（発想力・提案力） ・正しい製図方法を仲間アドバイスし、積極的に手助けすることができる（リーダーシップ）	・将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるために必要な製図上の最低限の知識を理解し、基本的なことについて説明できる。（知識・技能） ・本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を最低限身につけて、基礎的な製図を行うことができる。（知識・技能） ・情報を伝える手段としての設計図の表現方法を理解し作図することができる。（発想力・提案力） ・正しい製図方法を積極的に仲間と相談することができる（リーダーシップ）
インテリア製図演習II	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	2	インテリア製図演習Iで修得した製図のルールに従った表現能力を基に、この演習では具体的な設計課題を通して、インテリア空間の表現に相応しい図法を学習し、理解する。また、適切な寸法感覚と立体空間を構築する創造性を養い、正確に設計図を描く力を身につける	・図面表現の基礎を的確に理解し、具体的に説明できる。（知識・技能） ・3次元で空間や実体をイメージする能力を、実践的な学習によって身につけて、製図として適切に表現することができる。（発想力・提案力） ・仲間と積極的に討論し、知識や技能を協力的に高めあうことができる（リーダーシップ）	・図面表現の基礎を最低限理解し、基本的なことについては説明することができる。（知識・技能） ・3次元で空間や実体をイメージする能力を学習によって身につけて、基礎的な製図として表現することができる。（発想力・提案力） ・仲間と討論し、知識や技能を高めあうことができる（リーダーシップ）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
インテリア設計演習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	インテリアの特質を学習しながら自分のアイデアを盛り込んだ設計をするには、大きく手描き図面や模型作成による方法と、コンピュータを利用して製図、表現を行う方法がある。この演習では前者の方法で、自らの手作業を通して、ものを削り上げる実感を大切にしながら、製図、表現の基礎を学ぶと共に、インテリアに対する理解を深める。	・インテリア設計の意義を理解し、表現に値する内容を具体的に提案し、発表することができる。（知識・技能） ・空間を立体的に把握する能力を養い、様々な観点からインテリア空間を構成し快適な環境を設計することができる。（課題発見・解決力） ・インテリア設計の表現方法を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある作品として表現することができる。（発想力・提案力） ・アイデアや表現方法について仲間と積極的に話し合い、意見交換を行うことができる（リーダーシップ）	・インテリア設計の意義を理解し、表現に値する最低限の内容を提案し、発表することができる。（知識・技能） ・空間を立体的に把握する能力を養い、インテリア空間を構成し快適な環境を設計することができる。（課題発見・解決力） ・インテリア設計の表現方法を、学習によって身につけ、作品として表現することができる。（発想力・提案力） ・アイデアや表現方法について仲間と意見交換を行うことができる（リーダーシップ）
テキスタイルデザイン実習	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	1	手仕事として作られてきたテキスタイルには人の心を和ませる働きがある。伝統的な日本の文様、繊維や布の特性、基本的な染色技法や道具、染料の扱い方などを実習を通して学び、作品を制作することから理解を深める。さらに、CGソフトを活用したテキスタイルデザインに取り組み、実用性を活かしたデザインの面白さや奥深さを理解する。	・繊維や布の特徴に応じた染色方法を理解し、優れた作品を完成することができる。（知識・技能） ・伝統的な文様をはじめとするテキスタイルデザインについて探究し、具体的に説明することができる。（探究・継続力） ・文様や染色技法を効果的にデザインに取り入れて、表現することができる。（発想力・提案力）	・繊維や布の特徴に応じた基本的な染色方法を理解し、作品を完成することができる。（知識・技能） ・伝統的な文様をはじめとするテキスタイルデザインについて探究し、説明できる。（探究・継続力） ・文様や染色技法をデザインに取り入れて、表現することができる。（発想力・提案力）
インテリアCAD実習基礎	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	1	2	CAD（コンピュータを使った図面作成）ソフトの操作を習得しながら、住まいのインテリアデザインについて学ぶことで、自らの表現力を広げたいことを目指す。CADソフトの基本操作をさまざまな作図課題を通して習得、理解し、住宅やインテリアの図面表現を学ぶ。	・立体や空間を2次元として表現する図面のルールを正確に理解し、具体的に説明できる。（知識・技能） ・CADソフトの基本的な操作方法十分に理解し、各種設定も自ら行うことができる。モノの寸法やスケール感を身につけ、正確な図形・図面を自由に描くことができる。（課題発見・解決力） ・2次元空間を正確に構築し、図面としての体裁やレイアウト方法を提案し、印刷・表現することができる。（発想力・提案力）	・立体や空間を2次元として表現する図面のルールを最低限理解し、基本的なことについて説明できる。（知識・技能） ・CADソフトの基本的な操作方法を最低限理解し、指導の下で各種設定を行うことができる。モノの寸法やスケール感を身につけ、図形・図面を描くことができる。（課題発見・解決力） ・2次元空間を構築し、図面としての最低限の体裁を整え印刷・表現することができる。（発想力・提案力）
インテリアCAD実習応用	生活科学科 専門教育 科目 生活デザイン コース	2	1	インテリアCAD実習基礎ではCADソフトを使いこなすことを最優先に学習したが、この実習ではCADソフトの図面と実際の立体的な部屋、建物との関係を頭に入れて、描いているものを理解した上で作図できることを目標とする。さらに、自ら考えた住まいのインテリアデザインを美しく表現することへつなげていく。	・CAD図面と3次元の空間や実体との関係を理解し、具体的に説明できる。（知識・技能） ・CADソフトの応用的な操作方法十分に理解し、不明な作図方法について自己解決することで、正確な図形・図面を自ら描くことができる。（課題発見・解決力） ・3次元空間を正確に構築し、図面としての体裁やレイアウト方法を提案し、印刷・表現することができる。（発想力・提案力）	・CAD図面と3次元の空間や実体との関係を最低限理解し、基本的なことは説明できる。（知識・技能） ・CADソフトの応用的な操作方法を最低限理解し、指導の下で正確な図形・図面を描くことができる。（課題発見・解決力） ・3次元空間を構築し、図面としての最低限の体裁を整え印刷・表現することができる。（発想力・提案力）
食物基礎科学	生活科学科 専門教育 科目 食・健康コース	1	2	この科目では食品学、栄養学などの学習に必要な基礎的事項について理解する。高校化学について簡単に復習した後、五大栄養素の種類や食品の鑑別方法、食品のにおいや味などの基本的な事項について理解する力を身につける。	・食品成分の化学的な事項を十分理解することで、これから学ぶ栄養学、食品学等の基礎について、複数の事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・栄養素や酵素、食品のにおいや味、食品の鑑別方法などに関する事項を複数の事例を挙げて説明できる。（課題発見・解決力） ・日常の食事で摂取する栄養素に関心を持ち、これからの栄養摂取のありかたを具体的に継続して示すことができる。（探究・継続力）	・食品成分の化学的な基礎事項を理解することで、これから学ぶ栄養学、食品学等の基礎について、少なくとも1つの事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・栄養素や酵素、食品のにおいや味、食品の鑑別方法などに関する事項について、基本的な内容がなくとも1つの事例を挙げて説明できる。（課題発見・解決力） ・日常の食事で摂取する栄養素に関心を持ち、これからの栄養摂取のありかたの基本事項について、少なくとも1つ以上の事例を継続して示すことができる。（探究・継続力）
栄養学	生活科学科 専門教育 科目 食・健康コース	1	2	栄養学は栄養と栄養素についての学問である。栄養とは、生物が外界から物質を体内に取り入れて、生命維持に利用する化学反応のことであり、栄養素とは、この栄養に必要な物質のことである。したがって、この科目では人が健康的に生きるには、「何を、どの位、どのように食べたらよいか」を理解する。本講義を通して生活習慣病にからまないようにするための栄養学の知識と技術を身につける。	・栄養素の生理機能、消化・吸収・代謝機構について十分に理解した上で、複数の事例を挙げて説明することができる。また、フードベシヤリスト試験の出題ポイントを十分に理解して、試験の準備ができる。（知識・技能） ・健康を保持・増進するための食生活の役割について十分に理解し、説明することができる。（課題発見・解決力） ・私たちの体にとって必要不可欠な栄養および栄養素に関心を持ち、これからの栄養摂取のありかたを具体的に継続して示すことができる。（探究・継続力）	・栄養素の生理機能、消化・吸収・代謝機構についての基本的な事項について、少なくとも1つの事例を挙げて説明できる。また、フードベシヤリスト試験の基礎的な出題ポイントを理解して、試験を受けることができる。（知識・技能） ・健康を保持・増進するための食生活の基本的な役割について理解することができる。（課題発見・解決力） ・私たちの体にとって必要不可欠な栄養および栄養素に関心を持ち、これからの栄養摂取のありかたを、少なくとも1つの事例を継続して示すことができる。（探究・継続力）
食品衛生学	生活科学科 専門教育 科目 食・健康コース	1	2	我が国における食品の加工製造、保存技術、流通技術は向上しており、安全な食品を食卓に届けられるような仕組みができていく。しかし、食品の大産生産、製造技術の高度化に伴い、食中毒も発生している。食品衛生学の講義において、食品衛生の現状を知り、食中毒の特徴を学び、食品の衛生的な取り扱いを理解する。	・食中毒の原因となる細菌や寄生虫、自然毒などといった食中毒の特徴について総合的に理解し、複数の事例を挙げて事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・食品の衛生的な取り扱いについて総合的な観点から理解し、食品ごとに事例を挙げて継続して示すことができる。また、リスクを回避するための方法や行政の仕組みを理解し、事例を挙げて継続して示すことができる。（探究・継続力） ・食中毒の実際の事例について、原因やリスク回避の方法を詳細に説明できる。（発想力・提案力）	・食中毒の原因となる細菌や寄生虫、自然毒などといった食中毒の特徴について理解し、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・食品の衛生的な取り扱いについて基礎的な事項について継続して示すことができる。また、リスクを回避するための方法や行政の仕組みを理解し、基本的な事項について継続して示すことができる。（探究・継続力） ・食中毒の実際の事例について、原因やリスク回避の方法の基礎的な事項について説明できる。（発想力・提案力）
食品学	生活科学科 専門教育 科目 食・健康コース	1	2	食品学とは食品の種類や成分、性状などを広く学ぶ科目である。食品学を学ぶことにより、食品と栄養・健康・調理・加工・保存中に起こる食品成分の化学変化、栄養学的な変化との関係を知る。食品学の講義において、食品や水について食品学的な理解を深めるとともに、調理過程における変化を理解する。さらに、食品の嗜好性や機能性などについて理解する。	・水の性質、五大栄養素の性質を理解し、水分活性と保蔵性の関係について、代表的な食品を例にして複数の事例を挙げて説明できる。また、調理過程における食品成分の化学変化や食品の嗜好性、食品の機能性について総合的に理解し、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・技能） ・食材の調理・加工の詳細な事例を説明できる。（発想力・提案力） ・日常の食生活で摂取している食品について、具体的に継続して示すことができる。（探究・継続力）	・水の性質、五大栄養素の性質を理解し、水分活性と保蔵性の関係について、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項を説明できる。また、調理過程における食品成分の化学変化や食品の嗜好性、食品の機能性について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・食材の調理、加工の基本的な事例を説明できる。（発想力・提案力） ・日常の食生活で摂取している食品について、基本的な事項について継続して示すことができる。（探究・継続力）
調理学	生活科学科 専門教育 科目 食・健康コース	1	2	消費者・生活者が食生活について望ましい知識を持ち、また、その知識や生活技術を生かして実践することが望まれる。食品がどのような特性を持ち、調理過程において食品の組織や成分がどのように変化し、人間の身体や心に及ぼす影響について学ぶ。	・調理することの意義および心身が健康で豊かになるための食について総合的に説明でき、各食品が調理過程を経て、食事になるまでの工程で起こるさまざまな現象について具体的に述べる。（知識・技能） ・食物の成分・形状や性状の変化を十分に説明できる。（課題発見・解決力） ・各調理の科学的な意味・食品との関連性を自ら調べ、仮説を出して授業に臨み、自分なりの活論を求められる。（探究・継続力）	・調理することの意義および心身が健康で豊かになるための食について説明でき、各食品が調理過程を経て、食事になるまでの工程で起こる基本的な現象について述べる。（知識・技能） ・食物の成分・形状や性状における基本的な変化を説明できる。（課題発見・解決力） ・各調理の科学的な意味・食品との関連性を自ら調べ、最低限の仮説を出して授業に臨み、自分なりの活論を求められる。（探究・継続力）
女性と健康	生活科学科 専門教育 科目 食・健康コース	2	2	女性は女性ホルモンによって制御されたライフステージを持つことが特徴である。女性と健康の講義において、女性として自分の身体を理解した上で、女性のライフサイクルにおける健康問題に関する基本的な知識について理解し、健康の維持・増進のための様々な手法を理解する。	・女性のライフサイクルやライフサイクルにおける健康問題について理解し、その特徴を、複数の事例を挙げて事例を挙げて説明できる。さらに、健康問題を解決するための様々な手法を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・グループワークを通して、グループ内での役割を全うし、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ） ・日頃から健康維持・増進に対する詳細な取り組みが実践できる。（探究・継続力）	・女性のライフサイクルやライフサイクルにおける健康問題の基本的な事項について説明できる。さらに、健康問題を解決するための基本的な手法を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・グループワークを通して、グループ内での役割を理解し、他者を支援することでリーダーシップを示すことができる。（リーダーシップ） ・日頃から健康維持・増進に対する基本的な取り組みが実践できる。（探究・継続力）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ライフステージ栄養演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	ヒトはこの世に生を受けてから成長し、自らが支援者の一人となつて、やがて老い、人生を全うする。この一連のライフサイクルを健康で幸せに過ごすためには、各ライフステージにおいて生活習慣を整えることが求められる。ライフステージ栄養演習において、各ライフステージでの体の変化を知り、各ライフステージに特徴的な健康問題を理解する。さらに、それらの健康問題を解決するための様々な手法を理解する。	・栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について理解を深めることができる。複数の事例を挙げて詳細に説明できる。（知識・技能） ・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴を理解し、それぞれのライフステージにおいて求められる生活習慣、健康問題について、具体的に継続して示すことができる。（探究・継続力） ・栄養計算ソフトが使用できるようになり、得られた結果を用いた説明ができる。（知識・技能） ・各ライフステージの健康問題を理解するためにグループワークを行い、自分自身の意見を他者に的確に伝え、他者を支援することにより、リーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）（課題発見・解決力）	・栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項を説明できる。（知識・技能） ・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴について基礎的な事項を理解し、それぞれのライフステージにおいて求められる生活習慣、健康問題について、基本的な事項について継続して示すことができる。（探究・継続力） ・栄養計算ソフトが使用できる。（知識・技能） ・各ライフステージの健康問題を理解するためにグループワークを行い、自分自身の意見を他者に伝え、他者を支援することにより、リーダーシップを示すことができる。（リーダーシップ）（課題発見・解決力）
食品の消費と流通	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	食料をめぐるそれぞれの経済主体の行動がもたらす関連性を把握するのが食料経済である。食料経済の発展段階からみて、現在は、食料の生産から消費までの過程に、食品加工業・流通業・外食産業が介在する第4段階目といわれ、この全体の流れをフードシステムという。フードシステムにおける「食品の消費と流通」の実態と、またこれらの実態を理解するための基本的知識と考え方について理解する。	・今日のがわの国の食料消費や食生活の変化と食品の流通体系についての現状を、複数の事例を挙げて説明することができる。（知識・技能） ・学習を通じて、食生活・食産業の健全な発展に役立つフードスペシャリストとしての経済学における応用的知識を使用することができる。（課題発見・解決力） ・食品流通の仕組みについて、具体的に継続して示すことができる。（探究・継続力）	・今日のがわの国の食料消費や食生活の変化と食品の流通体系についての現状を理解するために、少なくとも1つの事例を挙げて基礎的な事項を説明できる。（知識・技能） ・学習を通じて、食生活と食産業の健全な発展に役立つフードスペシャリストとしての経済学における基礎的な知識を使用することができる。（課題発見・解決力） ・食品流通の仕組みについて、基本的な事項を継続して示すことができる。（探究・継続力）
嗜好評価処理演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース			人の好みあるいは甘い辛いと言った感覚を定量的に評価する官能評価について、基本的な知識や実施方法について理解する。また、評価結果の分析に必要な基礎統計と統計データの見方、統計ソフトの扱い方を、演習を通して理解を深める。さらに、応用課題に関するグループワークを行い、官能評価の利点と欠点を実践的に修得する。	・官能評価の基本的な知識や実施方法を理解し、官能評価の手法を適切に選び、統計ソフトを的確に操作することができる。（知識・技能） ・官能評価を行うことから、食品の嗜好性に及ぼす要因について考察し、的確に説明することができる。（課題発見・解決力） ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・官能評価の基本的な知識や実施方法を理解し、官能評価の手法を選び、統計ソフトを操作することができる。（知識・技能） ・官能評価を行うことから、食品の嗜好性に及ぼす要因について考察し、説明することができる。（課題発見・解決力） ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）
フードメディア演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	2	SNSの普及に伴い、専門的な知識の有無を問わず、ブログやInstagramには、様々な食に関する写真やレポート（食レポ）が掲載されている。本科目では、魅力的なレポートや写真に関する基本的な知識を習得し、効果的な情報伝達の方法について学ぶ。	・写真、映像撮影に使用する機材の種類、用途、特性、撮影方法等を理解し十分に説明できる。（知識・技能） ・被写体や撮影環境に合わせて最適な撮影機材、撮影方法を選択して撮影し、撮影した写真や映像に必要な応じて適切に加工、修正、編集することができる。さらに、写真や映像を使って、ポスター、ブログ記事、動画等のコンテンツ作成ができる。（探究・継続力） ・作成したコンテンツを適切なソーシャルメディアでの情報共有に活用する。（発想力・提案力）	・写真、映像撮影に使用する機材の種類、用途、特性、撮影方法の基本等を理解し説明できる。（知識・技能） ・被写体や撮影環境に合わせて撮影機材、撮影方法を選択して撮影し、撮影した写真を使ってレポートなどを作成することができる。さらに、写真や映像を使って、ポスター、ブログ記事、動画等のコンテンツ作成を意図した準備を行うことができる。（探究・継続力） ・習得した知識と技能をソーシャルメディアでの情報共有に活用する。（発想力・提案力）
フードスペシャリスト論	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	フードスペシャリストとは、食の本質がおいしさや楽しさ、おもてなしにあることについて学び、幅広い知識を身につけた食の専門家である。フードスペシャリスト論の講義において、フードスペシャリスト資格について理解し、食と食生活の向上のために、食文化や食品流通、食品保蔵、食にまつわる話題などを理解する。	・食文化や食品流通、食品保蔵について総合的に理解し、日本や世界の食文化について、複数の事例を挙げて詳細に説明できる。（知識・技能） ・フードスペシャリスト資格について総合的に理解し、フードスペシャリストの資格について詳細に説明できる。さらに、食にまつわる話題について総合的に理解し、事例を挙げて詳細に説明できる。（課題発見・解決力） ・フードスペシャリスト資格の内容や取り組み、資格取得の仕組みについて、具体的に継続して示すことができる。（探究・継続力）	・食文化や食品流通、食品保蔵について理解し、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・フードスペシャリスト資格について理解し、基本的な事項について説明できる。さらに、食にまつわる話題について理解し、基本的な事項について説明できる。（課題発見・解決力） ・フードスペシャリスト資格の内容や取り組み、資格取得の仕組みについて、基本的な事項について継続して示すことができる。（探究・継続力）
フードコーディネート論	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	食べるということは私たちの毎日の生活に欠かすことのできない行為である。食卓はくつろぎの場であり、人間関係を築く場、また食文化を伝承する場でもある。私たちの食環境をよく楽しく、心豊かな食生活を送るために、日本の伝統的食文化、外国の食文化、メニュー、食卓、食空間を含んだ食のコーディネートとはどのようなことか考える。さらに食卓のコーディネートにおいて欠かすことのできない、食器やグラスなどの食卓にまつわるアイテムの歴史やセッティングの基本などを学ぶ。	・食品のコーディネートに関する総合的な知識を身につけ、論述および実践することができる。（知識・技能） ・実社会で活用されているフードコーディネートについて十分に説明できる。（課題発見・解決力） ・フードスペシャリスト資格認定試験に合格できる。（探究・継続力）	・食品のコーディネートに関する基本的な知識を身につけ、実践することができる。（知識・技能） ・実社会で活用されているフードコーディネートについて説明できる。（課題発見・解決力） ・フードスペシャリスト資格認定試験に挑戦できる。（探究・継続力）
フードスペシャリスト演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	この科目はフードスペシャリストの資格取得を目指すための演習である。一般および専門フードスペシャリスト試験の出題分野に対応し、嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野の復習や過去の出題問題の解説を開き、試験を受ける準備ができる。	・嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野を学習することによって専門フードスペシャリスト試験合格レベルに到達する。（知識・技能） ・予想問題を詳細に推測できる。（課題発見・解決力） ・専門フードスペシャリスト資格合格のために、全ての科目について継続的に復習し、資格取得に向けて探究できる。（探究・継続力）	・嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野を学習し、一般フードスペシャリスト試験に合格するレベルにある。（知識・技能） ・予想問題を凡そ推測できる。（課題発見・解決力） ・フードスペシャリスト資格合格のために、全ての科目について継続的に復習し、資格取得に向けて探究できる。（探究・継続力）
食品学実験	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	1	食品の性質や栄養成分を理解するためには、食品学で学んだ内容を的確に理解することが求められる。食品学実験において、実験の心得と基本的な操作を習得し、栄養成分の定性・定量実験を行うことで、栄養成分を理解する。様々な加工食品を実習し、加工における食品の化学変化や食品保蔵を理解する。新しい加工食品を開発することで、食品加工の原理・方法を理解する。さらに、実験レポートの作成方法や実験値の取り扱いについて理解する。	・栄養成分における定量・定性の手法、実験器具の操作法について、複数の事例を挙げて十分に説明できる。また、実験レポートの書き方を十分に理解し、適切な考察ができる。さらに、加工食品の原理について説明でき、新しい加工食品が十分に開発できる。（知識・技能） ・実験器具の取扱いができ、栄養成分における定量・定性の操作が実践できる。さらに、加工食品が製造できる。（発想力・提案力） ・グループワークを行うことにより、自分自身の考えを他者に的確に伝え、メンバーの意見を汲み取ることにより、リーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・栄養成分における定量・定性の手法、実験器具の基本的な操作法について、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・実験器具の基本的な取扱いができ、栄養成分における定量・定性の基本的な操作が実践できる。さらに、基本的な加工食品が製造できる。（発想力・提案力） ・グループワークを行うことにより、自分自身の考えを他者に伝え、メンバーの意見を汲み取ることにより、リーダーシップを示すことができる。（リーダーシップ）
調理学実習基礎	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	1	人間は、調理することで食品中に含まれる栄養素を効率的に吸収することにより、成長し健康を維持している。また、おいしい楽しい食事は、精神的にも満たされ、人間関係を構築する上でも必要不可欠である。この科目では、調理の目的やたす役割を理解し包丁の使い方、器具の扱い、食材の計量、野菜の切り方、火の扱い方、加熱調理の方法など調理の基本をふまえて、献立がたてられ、日常生活において活用できることを目的とする。また、調理で起こる科学的な現象の理解を深める。	・調理特性を応用し実践できる。（知識・技能） ・日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作ができる。さらに、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、レポート作成を行うことができる。（探究・継続力） ・実習の最中に、内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、班員に意見を言い、まとめることができる（リーダーシップ）	・調理特性を理解できる。（知識・技能） ・日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な調理操作ができる。さらに、レポート作成ができる。（探究・継続力） ・実習の最中に、内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、班員に意見を言い、まとめることができる（リーダーシップ）
調理学実習応用	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	人は、調理することで食品の中に含まれる栄養素を効率的に吸収し、健康を維持している。また、おいしく、楽しく食事をすることにより精神的にも満たされている。この科目では、調理学実習基礎で学んだ内容をふまえて、食品の特徴を理解した上で基本調理から応用調理まで幅広く学び、その現象を調理科学的立場に立って確かめる。さらに食物と健康の関係からどのように食べ物を選び、組み合わせればよいか考察する。	・調理に必要な詳細な調理理論について理解し、説明でき、充実したレポート作成ができる。（知識・技能） ・日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作ができる。（探究・継続力） ・調理特性が説明でき、グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力、まとめ方を実践することができる。さらに、アクティブラーニングに積極的に取り組むことができる。（発想力・提案力） ・実習の最中に、内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、班員に意見を言い、まとめることができる（リーダーシップ）	・調理に必要な基本的な調理理論について説明でき、レポート作成ができる。（知識・技能） ・日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な調理操作ができる。（探究・継続力） ・基本的な調理特性が説明でき、グループでコミュニケーションをはかりながら行動できる。さらに、アクティブラーニングに取り組むことができる。（発想力・提案力） ・実習の最中に、内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、班員に意見を言い、まとめることができる（リーダーシップ）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
スイーツ実習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	人は、ただ栄養素を摂取することだけを目的として食事をするわけではない。食べ物をおいしく、楽しく食べることに精神的にも満たされている。楽しく食べる食べ物として、菓子のスイーツが挙げられる。この科目では、食材の特徴や調理理論を理解した上で、その現象を調理科学的立場に立って確かめる。さらに、様々な国の食文化とスイーツとの関係を理解し、考察する。	・調理特性が説明でき、充実したレポート作成ができる。（知識・技能） ・日本、西洋、中国のスイーツ類の調理操作ができる。（探究・継続力） ・アクティブラーニングに積極的に取り組むことができ、グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力、まとめ方を実践することができる。（発想力・提案力） ・実習の最中に、内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、班員に意見を言い、まとめることができる（リーダーシップ）	・基礎的な調理理論について説明でき、レポート作成ができる。（知識・技能） ・日本、西洋、中国のスイーツ類の基本的な調理操作ができる。（探究・継続力） ・アクティブラーニングを取り組むことができ、グループコミュニケーションをはかりながら行動できる。（発想力・提案力） ・実習の最中に、内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、班員に意見を言い、まとめることができる（リーダーシップ）
フードパッケージ実習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	市販されている多くの加工食品は、魅力的なパッケージがなされているが、そのパッケージには、法律などにより表示すべき内容などに消費がある。この科目では、食品のパッケージのルールを学んだ上で、消費者にとって魅力的な食品を開発し、その食品に対する購買意識が高まるような媒体（パッケージなど）を作成することにより、食品におけるパッケージの意義や消費者が求める食品を理解する力を身につける。	・食品表示のルールについて、複数の事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・市販されている様々な食品について特徴を理解し、消費者が求めるパッケージなどについて事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・新たな食品を開発し、それに適したパッケージなどを制作した上で、食品の魅力プレゼンテーションできる。（発想力・提案力） ・消費者が求める食品について理解し、複数の事例を挙げて説明できる。（課題発見・解決力）	・食品表示のルールについて、少なくとも1つの事例を挙げて説明できる。（知識・技能） ・市販されている様々な食品について特徴を理解し、消費者が求めるパッケージについて基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・食品に適したパッケージを制作できる。（発想力・提案力） ・消費者が求める食品について理解し、基本的な事項について説明できる。（課題発見・解決力）
食育演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	2	食育基本法では、「食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである」とされている。食育演習において、栄養の基本的な知識を理解し、望ましい生活習慣を実現するための様々な手法を理解する。	・栄養成分について理解し、複数の事例を挙げて詳細に説明できる。さらに、生活習慣を整えることの意義や各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を理解し、事例を挙げて詳細に説明できる（知識・技能） ・各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を解決する様々な手法を実践できる。（課題発見・解決力） ・グループワークを通して、グループ内での役割を全うし、各ライフステージにおける健康について議論することができる。（リーダーシップ）	・栄養成分について理解し、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項について説明できる。さらに、生活習慣を整えることの意義や各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・技能） ・各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を解決する基本的な事項について実践できる。（課題発見・解決力） ・グループワークを通して、グループ内での役割を理解し、各ライフステージにおける健康における基本事項について議論することができる。（リーダーシップ）
リテールマーケティング演習（販売士）	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	リテールマーケティング（販売士）とは、日本商工会議所が主催する公的資格である。この科目では、マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、接客や売場づくりなど、販売担当として必要な知識・技術を演習形式で修得する。リテールマーケティング（販売士）の資格を取得し、将来の実務に応用できる実践的な能力の修得を目指す。	・小売業の類型・マーチャンダイジング・ストアオペレーション・マーケティング・販売・経営管理についての知識・技能を理解し、具体的に説明することができる。（知識・技能） ・リテールマーケティングに関する知識・技能を活用して、接客や売場づくりなどで求められる課題を発見し、自らの判断で創造的に解決することができる。（課題発見・解決力） ・専門知識の修得を継続して行うことで、将来のキャリアを探究し、実践的な場面で能力を活用することができる。（探究・継続力）	・小売業の類型・マーチャンダイジング・ストアオペレーション・マーケティング・販売・経営管理についての知識・技能を理解し、説明することができる。（知識・技能） ・リテールマーケティングに関する知識・技能を活用して、接客や売場づくりなどで求められる課題を発見し、解決することができる。（課題発見・解決力） ・専門知識の修得を継続して行い、探究することで、実践的な場面で能力を活用することができる。（探究・継続力）
ITパスポート論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	ITパスポート試験は、ITを活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。現代社会においては、文系・理系を問わずITの基礎知識は必要不可欠であり、常に最新の情報を取得しておく必要がある。この講義では、ITパスポート試験合格に必要な基礎的な知識と技能を習得し、情報技術全般についての理解を深め、ITパスポート試験合格を目指す。	・ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の概要について総論的に説明することができる。（知識・技能） ・出題分野であるストラテジ系（一般業務に関する分野）、マネジメント系（システム管理に関する分野）、テクノロジー系（情報技術に関する分野）の知識や用語を論理的に理解し、問題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を継続的に修得し、オフィスツールを適切に活用することができる。（探究・継続力）	・ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の概要について最低限総論的に説明することができる。（知識・技能） ・出題分野であるストラテジ系（一般業務に関する分野）、マネジメント系（システム管理に関する分野）、テクノロジー系（情報技術に関する分野）の知識や用語を理解し、基本的な問題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を修得し、オフィスツールを活用することができる。（探究・継続力）
ITパスポート演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	ITパスポート試験は、ITを活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。ITパスポート試験合格を目指し、試験科目であるストラテジ系（経営全般）、マネジメント系（IT管理）、テクノロジー系（IT技術）に準拠した課題演習を数多く行うことで理解を深め、創造的で確かな情報基盤力を身に付けることでITパスポート試験合格を目指す。	・ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の基本的な内容について具体的に説明することができる。（知識・技能） ・出題分野であるストラテジ系（経営全般）、マネジメント系（IT管理）、テクノロジー系（IT技術）の演習問題を通してITに関する総合的な学力を身に付け、課題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的に学び、試験に合格することができる。（探究・継続力） ・コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を総合的に応用し、オフィスツールを活用し解決策を積極的に提案することができる。（発想力・提案力）	・ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の基本的な内容について説明することができる。（知識・技能） ・出題分野であるストラテジ系（経営全般）、マネジメント系（IT管理）、テクノロジー系（IT技術）の演習問題を通してITに関する学力を身に付け、最低限の課題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的に取り組むことができる。（探究・継続力） ・コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を応用し、オフィスツールを活用し解決策を提案することができる。（発想力・提案力）
データ解析演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	科学（自然科学・社会科学）では、実験、観察、面接、調査等の方法により人間の行動や自然の法則性を見いだそうとしている。この科目では調査法で得られたデータを統計ソフトのSPSSを用いて解析を行い、レポート（調査報告書）の作成を通して、実証的な研究の進め方を学ぶ。	・実証的な研究の進め方について理解し、定量的な調査法で得られたデータ分析をとおして、実社会の諸課題ととらえることができる。（探究・継続力） ・統計ソフトウェア（SPSS）を用いたデータの入力および目的に沿った適切な分析を行うことができる。（知識・技能） ・研究調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、調査目的に沿った適切な調査を実施し、得られた結果から課題を発見し、解決する能力を身に付ける。（課題発見・解決力）	・統計ソフトウェア（SPSS）を用いたデータの入力および目的に沿った分析を行うことができる。（知識・技能） ・研究調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、調査目的に沿った適切な調査を実施し、得られた結果から最低限の課題を発見し、解決する能力を身に付ける。（課題発見・解決力） ・実証的な研究の進め方について理解し、定量的な調査法で得られたデータ分析をとおして、実社会の諸課題をある程度とらえることができる。（探究・継続力）
医療事務入門	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	医療事務は、病院・クリニックなどで医療事務を担う専門職であり、医療事務検定は、医療事務協会が実施する資格・検定である。医療保険制度の専門的な知識から、医療事務の実践的なスキルである医療費算定の知識を修得するものであり、合格者は医療機関で活躍することが期待できる。この科目では、医療事務の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定の合格に必要な基礎的な知識と技能を修得し、資格取得を目指すとともに医療や健康な生活への意識を涵養する。	・医療事務全体の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定の合格および医療事務の仕事に従事する上で必要とされる専門的な知識・技能を理解し、具体的に説明することができる。（知識・技能） ・出題範囲である、患者接遇、基本診療科、医療事務知識（医療保険制度や各種法令等、診療報酬算定等）に関して、修得した知識・技能を活用して、問題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・医療保険制度の基礎知識、患者接遇マナーや職場でのコミュニケーションスキル、医療費の算定方法等に関する知識を多角的に捉え、自ら問題に取り組み、修得した能力を継続して向上させることができる。（探究・継続力） ・医療事務検定に必要とされる知識・技能を生かして、日常生活に役立てることができる。（発想力・提案力）	・医療事務全体の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定および医療事務の仕事に従事する上で必要とされる専門的な知識・技能を理解し、説明することができる。（知識・技能） ・出題範囲である、患者接遇、基本診療科、医療事務知識（医療保険制度や各種法令等、診療報酬算定等）に関して、修得した知識・技能を活用して、最低限の問題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・医療保険制度の基礎知識、患者接遇マナーや職場でのコミュニケーションスキル、医療費の算定方法等に関する知識を基に、修得した能力を継続させることができる。（探究・継続力） ・医療事務検定に必要とされる最低限の知識・技能を生かして、日常生活にある程度役立てることができる。（発想力・提案力）